

## 平成28年度牧之原市市民意識調査結果（一部抜粋）について

### 1 調査の概要

- ・ 目的 市の取り組みに対する市民の評価や意識を把握するとともに、昨年度からスタートした第2次総合計画の進捗管理及び推進の資料とするために実施する。
- ・ 調査期間 平成28年4月29日～5月13日
- ・ 対象 16歳以上の市民1,400人を無作為抽出
- ・ 実施方法 郵送による調査票配布及び回収（回答は無記名）
- ・ 発送数 1,399通（転居等により1通未達）
- ・ 有効回収数 831件
- ・ 有効回収率 59.4%（H27:59.7%、H26:56.5%、H25:61.6%）
- ・ 経過 平成19年度から実施し、今回調査で9回目

### 2 調査結果（一部抜粋）

#### （1）今お住まいの場所に今後とも住みたいと思いますか？（報告書P8）

- ①「住みたい」は59.0%となり、昨年度とほぼ変化がなかった。また「市外へ移りたい」についても20.7%であり、昨年度とほぼ変化がなかった。
- ②市外・市内の他の場所へ移りたい理由は、「地震や津波などの被災のおそれがあるから」が60.3%ともっとも高かった。
- ③「住みたい」は10、20、40歳代で5割を下回り、20歳代が36.1%ともっとも低かった。

#### （2）今現在、幸せだと思いますか？（報告書P12）

- ①「幸せだと思う」（「大いに思う」＋「ある程度思う」）は66.9%となり、昨年度とほぼ変化がなかった。一方で、「幸せだと思わない」（「あまり思わない」＋「まったく思わない」）は10.0%となり、昨年度に比べ2.5ポイント上昇した。
- ②幸せだと思う理由は、10歳代では「家族や友人との関係が良好だから」、20～60、80歳代では「健康であるから」、70歳代では「住まいがあるから」がもっとも高かった。

(3) 市は子どもを産み育てやすい環境だと思いますか？子どもを産み育てやすい環境にするために市が取り組むべきことは何ですか？（報告書P17、18）

①産み育てやすい環境か

ア 「子どもを産み育てやすい環境だと思う」（「大いに思う（3.4%）」＋「ある程度思う（29.0%）」）は32.4%と、昨年度より1.4ポイント上昇した一方で、「子どもを産み育てやすい環境だと思わない」（「あまり思わない（21.1%）」＋「まったく思わない（6.9%）」）は28.0%と昨年度より1.1ポイント上昇した。

イ 「子どもを産み育てやすい環境だと思わない」がもっとも高かったのは、50歳代（38.4%）で、「子どもを産み育てやすい環境だと思う」（32.4%）を6ポイント上回った。

②市が取り組むべきこと

ア 「小児科や産婦人科などの医療機関の充実」が69.2%ともっとも高く、次いで「子育てに関する経済的支援の充実」（46.3%）、「地震・津波など災害対策」（29.4%）となった。

イ 30歳代では、「小児科や産婦人科などの医療機関の充実」に次いで、「親子で遊べる施設や公園の整備」となった。

(4) 公共施設の更新問題（老朽化問題）を知っていましたか？更新問題に対する市の取り組みを知っていましたか？（報告書P21、22）

①公共施設の更新問題を知っていたか

ア 更新問題の「認知度（知っている）」は25.3%であり、「聞いたことがある」の38.8%と合わせると全体の約6割以上であったが、昨年度に比べ3.4ポイント低下した。

イ 更新問題の「認知度」がもっとも高かったのは、70歳代（35.0%）であった一方で、年齢が下がるにつれて認知度も低下傾向であり、10歳代では6.5%となった。

②更新問題に対する市の取り組みを知っていたか

ア 市の取り組みの「認知度（知っている）」は6.9%、「聞いたことがある」は21.5%となった。

イ 市の取り組みの「認知度」が高かったのは、80歳代（10.1%）、70歳代（9.2%）、60歳代（8.6%）となった一方で、10歳代では0%であった。

ウ 市の取り組みの情報入手経路については、「広報まきのほら」が68.6%ともっとも高く、次いで「家族や知人から」（33.1%）、「議員の話」（12.7%）となった。

(5) 公共施設更新問題の対応を進めることで起こる諸問題についてどう思いますか？（報告書P26）

① 「対応を進めることで起こる諸問題への容認度」（「容認できる（10.4%）」＋「ある程度までは容認できる（70.8%）」）は81.2%と昨年度と同様に約8割を占めた。

② 「容認度」がもっとも高かったのは、30歳代で（「容認できる（8.2%）」＋「ある程度までは容認できる（78.8%）」）87.0%となった。

(6) 市の産業は活力があると思いますか？市の産業が活力を持つために市が力を入れるべき取り組みは何ですか？（報告書P27、30）

①市の産業は活力があるか

ア 「活力があると思う」（「大いに思う（0.2%）」＋「ある程度思う（8.4%）」は8.6%となり、昨年度とほぼ変化がなかった。一方で、「活力があると思わない」（「あまり思わない（38.9%）」＋「まったく思わない（14.2%）」は53.1%となり、昨年度とほぼ変化がなかった。

イ 活力がある産業としては、農業が48.6%ともっとも高く、次いで「工業」（34.7%）、「観光業」（18.1%）となった。

②市の産業が活力を持つために力を入れるべき取り組みは何か

ア 「企業誘致の促進」が46.7%ともっとも高く、次いで「後継者の育成への支援」（36.8%）、「特産品・製品の市外へのPR」（33.1%）となり、昨年度と同様の傾向であった。

イ 10歳代では「特産品・製品の市外へのPR」が51.6%でもっとも高かった。

(7) 週に何日くらい外出しますか？現在参加している地域活動は何ですか？地域活動の活発・活性化に必要なと思うことは何ですか？（報告書P33、37、40）

①週に何日くらい外出するか

ア 「毎日外出する」は、44.7%と全体の約4割以上を占め、昨年度に比べ2.4ポイント低下した。

イ 毎日外出する割合は、年齢が上がるにつれ低下傾向で、60歳代では37.7%、70歳代では29.2%、80歳以上では13.9%となった。

ウ 外出目的は、「買い物」が82.4%ともっとも多く、次いで、「仕事」（60.7%）、「趣味や娯楽」（36.8%）となり、昨年度と同様の傾向となった。70歳以上では「医療機関への通院」が約4割以上と他の年代と比べ高くなった。

②現在参加している地域活動は何か

ア 「自治会の行事」が33.3%ともっとも高く、次いで、「防犯や防災」（22.0%）、「文化芸術」（15.3%）となった一方で、「参加していない」も32.9%と高かった。

イ 「子育て支援」が1.9%ともっとも低かった。

ウ 「地域活動へ参加していない」割合は、20歳代で60.7%ともっとも高く、次いで、10歳代（51.6%）、30歳代（35.3%）となった。

③地域活動の活発・活性化に必要なものは何か

ア 「住民の自治意識の向上」が41.3%ともっとも高かったが、昨年度に比べ6.7ポイント低下した。次いで、「行政と住民との地域情報の共有」（40.0%）、「人材育成」（25.6%）となった。

イ 20歳代では「各種組織団体の連携」が26.2%と他の年代と比べ高かった。

(8) 市からの情報の中でどんな情報を得たいと思いますか？市からの情報を何によって知ることが多いですか？広報まきのはらのどこを読みますか？  
(報告書P43、46、49)

①市からの情報の中でどんな情報を得たいか

ア 「健康・医療・福祉」が64.1%ともっとも高く、次いで「防災・防犯」が51.3%となった。

イ 10歳代では、「防災・防犯」が51.6%ともっとも高く、30歳代では、「子育て」が45.9%と他の年代と比べ高くなった。

②市からの情報を何によって知ることが多いか

ア 「広報まきのはら」が74.0%と圧倒的に高かったが、昨年度に比べ3.1ポイント低下した。

イ 平成25年度から開設した市の「フェイスブック」により情報を得ている年代は、30歳代が11.8%ともっとも高かった。

③広報まきのはらのどこを読むか

ア 「全て」が56.4%ともっとも高く、次いで、「特集・お知らせ」(23.4%)、「まちのわだい」「生活情報」(17.7%)などとなった。

イ 10歳代では、「輝け！未来」が54.6%、30歳代では、「生活情報」が30.7%と他の年代と比べそれぞれ高かった。

(9) 浜岡原子力発電所の今後についてどう思いますか？（報告書P16）

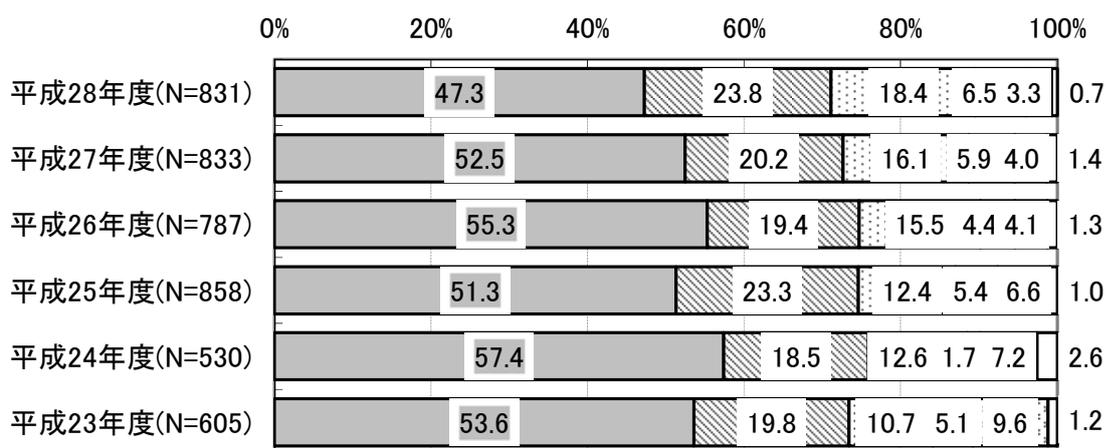
①全体

ア 「停止しておいたほうがよい」は47.3%となり約半数を占め、昨年度の52.5%より5.2ポイント低下した。

イ 「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」は、23.8%となり、昨年度に比べ3.6ポイント上昇した。

ウ 「その他」の3.3%には廃炉等の意見1.9%が含まれている。

（廃炉等の意見 H27 は1.4%、H26 は2.0%、H25 は3.5%、H24 は4.0%、H23 は6.3%）。



- 浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい
- 浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい
- どちらともいえない
- わからない
- その他
- 無回答

②男女別

ア 「停止しておいたほうがよい」は、女性が49.0%と、男性の45.2%を上回った。（昨年度：男性49.9%、女性55.6%）

イ 「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」は、男性が28.0%となり、女性の20.2%を上回った。（昨年度：男性25.9%、女性15.0%）

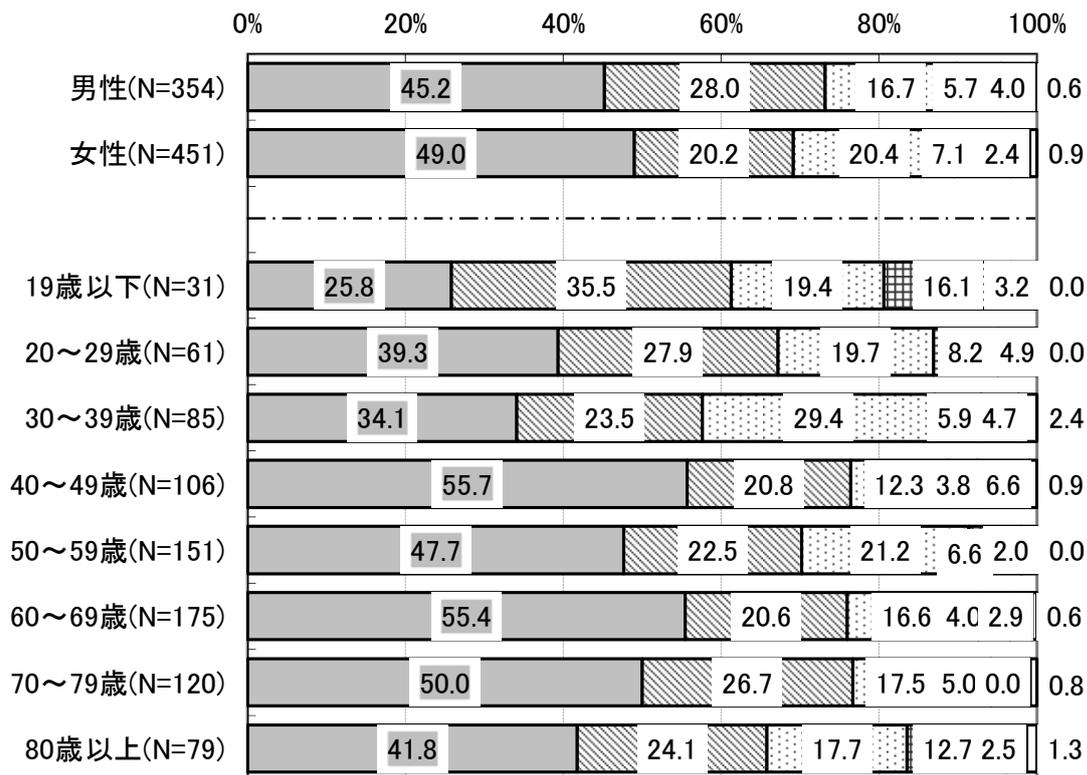
ウ 「どちらともいえない」は、女性が20.4%とH23から増加傾向にある。

③年齢別

ア 10歳代では、「安全が確認できれば、稼働したほうがよい」が35.5%と他の年代と比べもっとも高く、「停止しておいたほうがよい」が25.8%ともっとも低かった。

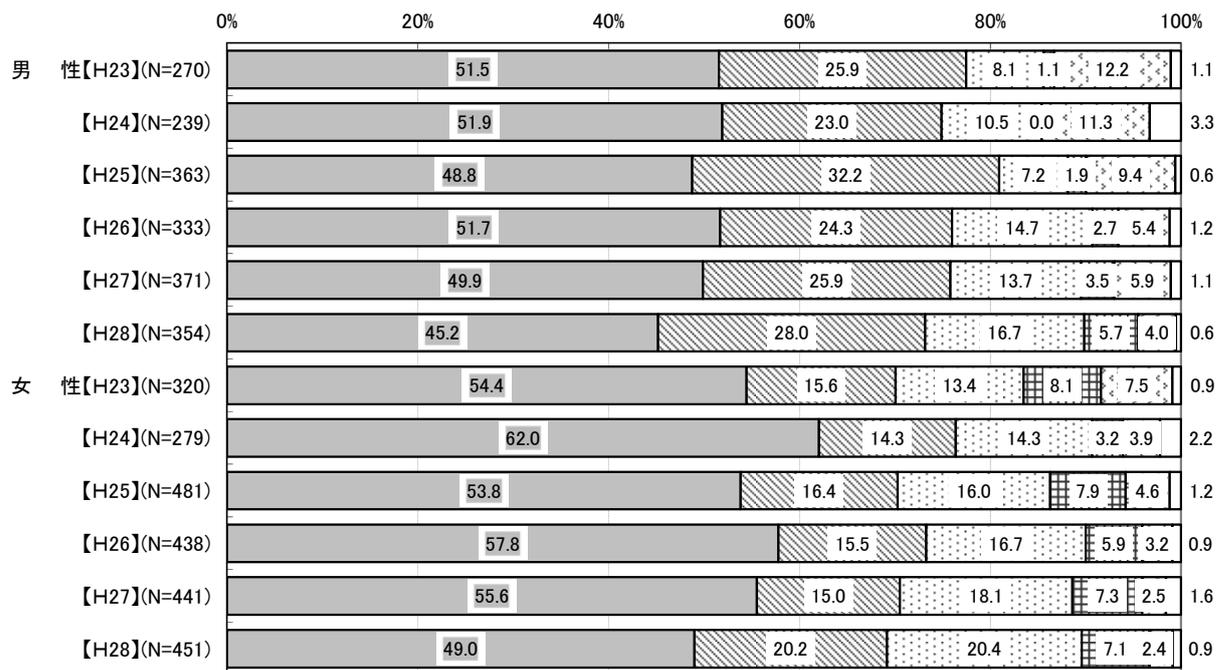
イ 40歳代では、「停止しておいたほうがよい」が他の年代と比べ55.7%ともっとも高く、次いで60歳代が55.4%となった。

【浜岡原発：性別・年齢別クロス】



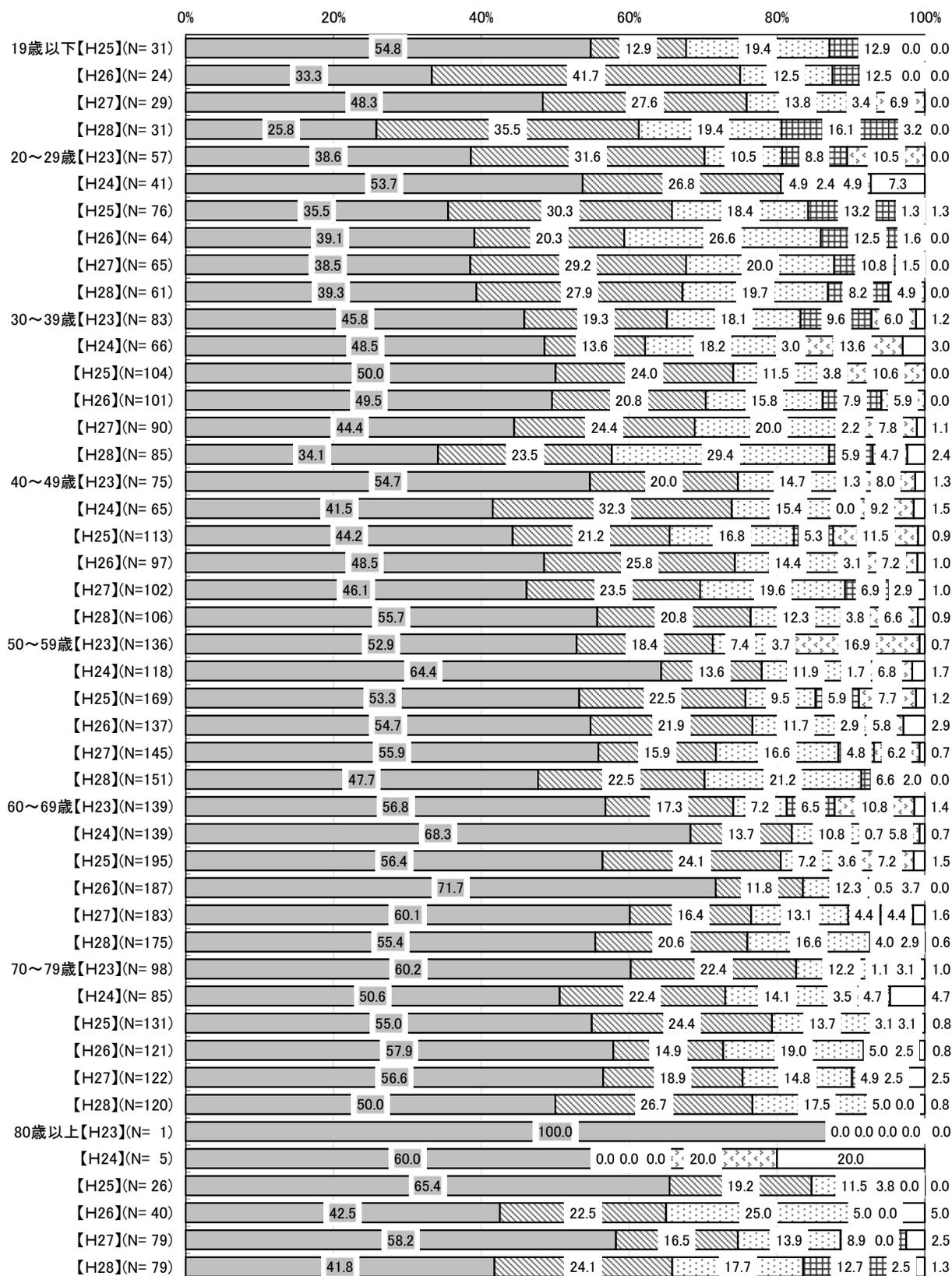
- 浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい
- 浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい
- どちらともいえない
- わからない
- その他
- 無回答

【浜岡原発：性別クロス / 平成 23 年度以降 経年比較】



浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい  
 浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい  
 どちらともいえない  
 わからない  
 その他  
 無回答

【浜岡原発：年齢別クロス / 平成23年度以降 経年比較】



浜岡原子力発電所は、停止しておいたほうがよい  
 浜岡原子力発電所の安全が確認できれば、稼働したほうがよい  
 どちらともいえない  
 わからない  
 その他  
 無回答